

映画会のお知らせ

1月6日(土)
午前10時～午後6時

(但し、午後1時～3時は上映休止)

「映像で巡る世界の旅」

ナショナル・ジオグラフィックのDVDビデオ作品を上映。世界各国の自然や歴史をたどる映像の旅をお楽しみください。

12月から1月の本の特集

「さようなら20世紀」

今年も少なくなり、いよいよ20世紀が終わろうとしています。そこで、当館では「さようなら20世紀」と題して、この百年を振り返る特集を企画しました。歴史、社会、文学など、さまざまな本を集めましたので是非ご覧ください。



新刊図書案内

●話しておもしろい環境学

人間と自然との「つながり」をわかりやすく学習する書。C.W.ニコル、高木美保をはじめとした自然を愛する著名人が、自ら体験を語る。

●翻訳夜話

翻訳が好きで仕方がないふたりが、それぞれの熱い思いを若い読者に向けて語り尽くした一冊。同じ作品を訳した「競訳」も併録。

●血の味

封印したはずの過去の殺人の記憶。その暗闇へ強引に引きずり戻したのは、不意に遭遇したあの眼だった……。著者が、15年の歳月をかけた書き下ろし小説。

●チンドン屋の大将になりたかった男

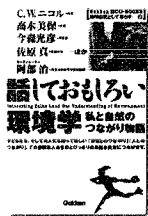
戦前・戦後の混乱期に音楽の灯を守り続け、今日のN響の土台を築いた有馬大五郎。N響指揮者である著者が、有馬氏の生涯を描く。

●不況もまた良し

経営の神様、松下幸之助はいかにして多くの不況を乗り切ったのか。その一挙手一投足を活写した、画期的長編小説。

●あふれた愛

生きていくということ―その意味と真実とは。「永遠の仔」の著者が、人々の交錯する心情を通して問いかける4つの物語。



催し物

第21回

村民元旦マラソン大会

毎年恒例となりました元旦マラソン大会を次のとおり開催いたします。多数の参加をお待ちしています。

とき 平成13年1月1日(月)
受付 午前9時30分
出発 午前10時30分
ところ 月潟小学校(スタート)コース 2km・4km
※詳細は防災行政無線などで後日お知らせいたします。

えほんの部屋

世界の名作絵本を読み聞かせで楽しんでみませんか？

どなたでも参加できますので、お気軽にお越し下さい。

とき 毎週土曜日
午後1時30分から

ところ 村民図書館
※第2土曜日は午前10時30分から開設しています。多数の参加をお待ちしています。

大盛況
冬季スポーツ祭

月潟村体育指導委員協議会の主催により、12月3日(日)に月潟中学校体育館を会場に開催されました。

種目は4人制のソフトバレーボールで、参加チームは中学生の11チーム・一般参加7チームの計18チームとなり、活気あふれる大会となりました。

試合中は、友達のチームを応援したり、また、大人の選手が中学生チームを指導したりと和気あいあいとした雰囲気の中、笑い声や拍手が聞こえてきたりと、大変賑やかでした。

決勝トーナメントでは各試合とも手に汗握る熱戦が続き、見ている人たちもボールの行方に一喜一憂していました。

結果は次のとおりです。

- 優勝 タニヤンズ！
準優勝 ハッスルババアミレニウム
三位 ミスター桃太郎
アッチーズ

第21回

村民芸能祭賑わう

ふるさと実行委員会・月潟村文化協会・月潟村公民館の主催により11月12日(日)、農環センターを会場に開催されました。

舞台の準備、司会進行、照明スポット係を出演者同士で行ない、手づくりで開催して来た村民芸能祭も今年で21回目となります。出演者、毎年足を運んで下さる皆さん共にこの日を楽しみにしていた事と思います。

出演は月潟村文化協会加盟団体による唄・踊り・地方演奏・コーラス・琴・尺八・太鼓の他に、月潟中学校3年B組の生徒による合唱、老人会カラオケ友好会によるカラオケショーと、13団体が24の出し物を各々の持ち味を生かして披露しました。



第15回燕バスケットボール協会長杯争奪ミニバスケットボール大会

第22回BSN杯新潟県ミニバスケットボール大会 予選結果

11月25日(土)・26日(日)の2日間、燕市民体育館を会場に開催されました。

西蒲・燕地区より男子・女子それぞれ17チームが参加し、県大会出場目指して熱戦が繰りひろげられました。月潟村からは男子・女子各1チームが出場しました。

結果は次のとおりです。

- 男子
第1戦 月潟ミニバスケット 25-37 吉田小
第1戦 月潟ミニバスケット 58-0 YOBIS GIRLS
第2戦 月潟ミニバスケット 57-10 黒崎町女子
準決勝 月潟ミニバスケット 26-39 燕ジュニア
男子は惜しくも1回戦敗退、女子は3位入賞と健闘しました。



みんなで守ろう文化財

文化財防火デー 1月26日

(文化庁、消防庁)

国民共通の貴重な財産である文化財を火災などの災害から保護し、これらの財産を後世に伝えていくことは、わたしたちの重要な責務です。

